

な誤りがあったので、訂正とともに今少しトンボについて話をさせて頂く。

まず、宝塚昆虫館には西宮市鳴尾V-1936のラベルのついたベッコウトンボの標本が所蔵されている筈である。採集者の柴田慶蔵氏（大阪市在住）には先年お会いし、当時の模様を聴く機会を得た。ベッコウトンボと言え、加古川方面の低湿地、丘陵が多産地として知られていたが、本種は日本からは殆んど姿を消したとも言われ、残念ながらこの方面でも最早絶望的であろう。小生昨年5月、以前（1971年頃）多産した小野市鴨池、加西市志方七ツ池を訪れたが本種の姿は見られなかった。風致地区であり、環境は見たところ以前と少しも変わっていないのだが。次にネアカヨシヤンマの産卵習性であるが、親メスはセリの茎に卵を産むと記したが、これは小生の思い違いでVol.10 No.1 に記されているコケ、湿土上に産卵すると言う田中稔氏の観察が正しい。小生の誤認を陳謝する。それからサラサヤンマについても泥上の枯板、ハンノキの根に産卵すると記したが、これは組織内ではなく、それ等に附着した土に産んでいたか、或いは産もうとしたが好的な物体でないので産まずに飛び去ったとも考えられる。更に六甲山系の溪流がムカシトンボの棲息に適しない理由の一つとして溪流の傍に親メスが卵を挿入するフキ、ワサビ等葉柄の長い草本が生じていないことを挙げたが、今年日本蜻蛉学会の方からムカシトンボは葉柄ばかりでなく、地表の苔に産卵することが最近判明したとのご教示を頂いた。お恥しい次第であるが、小生蜻蛉目の行動習性は大雑把にしか観ていなかったらしい。それになんと言っても神戸辺りでは上述のような珍しいトンボを観察できる場所は最早なくなってしまった。たゞアオヤンマだけは明石城やぐら北側の蓮池で今年の夏も沢山見た。

青蜻蛉 花の蓮の胡蝶かな 素堂

眼には青葉山ほとゞぎすの秀句で知られる、山口素堂（1642-1716）の作であるが、これはその晩年江戸深川の自邸で詠んだものといわれる。（1983-Ⅷ-16記）

伊丹市内におけるナガサキアゲハの採集および観察記録

新 家 勝

1980年以降、阪神間各地におけるナガサキアゲハの採集が、新聞紙上で度々、報じられているが、伊丹市内のものはみられない。筆者は1982年5月9日に伊丹市昆陽池公園のタニウツギの花に1羽が飛来したのを目撃しており、今年は採集できることを期待して5月8日に同所を訪れた。ところが、タニウツギは剪定され、花が少なく、ナガサキアゲハは飛来していなかった。その帰途、同所の北北

西約1kmにある素戔鳴神社(伊丹市鴻池)に立ち寄ったところ、数頭(翅の破損状態の視認による推定)の♂が飛び回っているのに遭遇した。この神社の境内には高さ10mを超えるクスノキ、アラガシ、シイ、ヒノキなどが多数、繁茂し、その間に蝶道が形成されており、ナガサキアゲハのほかクロアゲハが目撃された。記録のためナガサキアゲハ1♂を採集したが、かなり破損していた。この境内にはナツミカン数本が栽植されており、クロアゲハが産卵していた。ナガサキアゲハの発生を確認できることを楽しみにして5月15日、同21日および同29日に同神社を訪れたが、♀の飛来と産卵行為および幼虫は目撃できず、同29日には♂の姿が消えてしまった。夏型が発生するものと推定される7月10日頃より毎週土曜日または日曜日には同神社を訪れたが、夏型は♂♀共目撃できなかった。同神社において春型♂を多数目撃できたのは偶然のことであったかも知れないが、ナガサキアゲハは阪神間にほぼ定着したと見られており、伊丹市内でもどこかで発生しているものと推定される。同神社近辺で発生を確認できることを楽しみにしている。

西宮市内におけるチビサクラコガネの採集記録

新 家 勝

本誌第11巻第1号の「神戸産珍奇なコガネムシ数種の記録」によれば、チビサクラコガネおよびオオサカスジコガネの兵庫県下での採集記録は少ないようであるが、筆者の長男の標本中にチビサクラまたはオオサカスジとおぼしきコガネムシ2頭があったので、1983年8月28日に神戸大丸で開かれた神戸生物クラブの同定会に持参し、高橋寿郎氏に同定していただいた。その結果、チビサクラコガネと判明したので報告させていただく。

- (1) 採 集 日 1975. 6. 21
- (2) 採 集 場 所 西宮市樋ノ口町1丁目、国道171号線下の地下道燈火。
- (3) 採 集 頭 数 2 頭
- (4) 採 集 者 新家邦紹